

地震災害の備えについて（正しく知って、正しく備えよう！）

下地町内会

地震は、いつ発生するか？がわからない自然災害です。自分の地域では、どんな地震が来る可能性があるのか？、どの程度の被害が予想されるのかを、正しく知って、地震災害についての「こころの備え」をしておきましょう。

1. 地震発生メカニズム

地震の種類は、3つあります。

- ① 海溝型地震 → 東日本大震災、南海トラフ大地震（震源深さ→25 km程度）
- ② スラブ型地震 → 関東大震災、芸予地震（震源深さ→50 km程度）
- ③ 断層型地震 → 阪神淡路大震災、熊本地震、能登地震（震源深さ→ごく浅い）

2. 下地地区に影響すると思われる地震

① 南海トラフ大地震（M9.0）

この地震は、フィリピン海プレートが、日本列島に沈み込んで行くうちに、ひずみが溜まっていき、一定の期間が経つと、耐えきれなくなって、跳ね上がり、周期的に大きなエネルギーを放出して、**大地震**になります。

かつては、南海地震、東南海地震、東海地震と呼ばれていましたが、東日本大震災で、岩手県沖、宮城県沖、福島県沖の3つの震源域で、ほぼ同時に地震が発生し、巨大化したことから、現在は、3震源域で同時に発生する可能性があるため、「**南海トラフ大地震**」と呼ばれています。

海溝型の地震の特徴は、エネルギーは、巨大だが、震源が、海溝部分で陸地から離れていて、下地地区に到達するのは、約1分30秒ほど掛かります。

予想される最大震度は、下地では震度5強、広島市内では、震度6弱です。

この地震の特徴は、大きな津波が発生することで、**被害の多くは、津波**によるものです。

② 芸予地震（M7.4）

芸予地震は、フィリピン海プレートが、日本列島に沈み込んだ後、芸予灘付近の地下深くで、スラブ（板）同士がぶつかり合って発生する地震です。

この地震も、周期的に発生し、約67年周期と言われています。

震源が深い直下型の地震で、発生後、すぐに到達しますので、対応できません。

直近の発生は、2001年で、この地震の想定最大震度は、震度6弱です。

③ 己斐・西緑断層地震（M6.5）

己斐から、火山山系を通過して、緑井に抜ける約10 kmの断層がずれることによって、発生する地震です。

己斐付近で、断層の動きが観測されていますが、発生確率は、1万年～10万年となっています。ですが、明日かもしれないというタイプの地震です。

浅いところで発生する直下型の地震で、影響部分は、局地的ですが、被害は大きくなります。
想定されている人的被害は、死者1名ということで、断層上の限られたところに被害が起こると
いうものです。

尚、断層とは、かつて、その地域に、M6.5以上の地震が発生してできた地表のしわで、広島県
では、ほぼ同様の方向に、全域に渡って、存在します。

3. 地震災害に対する対応、備えはどうすればいいの？

(ア) 南海トラフ大地震の場合には、発生後、すぐに緊急地震速報が出ます。速報が出てから、約
1分半後に、当地に地震が到達しますので、時間的な余裕が、少しあります。

建物の外に出る、建物の中の比較的安全な場所へ移動する等の対応ができます。

就寝中に地震が発生した場合には、携帯電話を枕元に置いておくと、大きな音で、
知らせてくれますので、携帯電話を枕元に置いて、寝るようにしましょう。

(イ) 芸予地震、己斐・西緑断層地震の場合には、直下型地震ですので、到達時間が短く、対応す
ることはできません。

4. 地震災害で知っておくべきこと

(ウ) 1981年(昭和56年)に設計基準が改定され、以降に設計・建設された建物の、下地地区
で予想される地震による全壊リスクは、ほぼゼロになっています。

(エ) 1981年以前に設計・建設された建物には、状況によって、全壊リスクのあるものがありま
すので、建物の壁の配置が歪な建物、壁の量が少ない東屋のような建物、1階がピロティ
ーになっているような建物は、耐震診断をしてもらうことがオススメです。

(オ) 大地震では、家具の転倒防止金具等は、意味をなしません。下地地区に到達する地震程
度では、ある程度の効果があると思われまますので、家具の転倒による怪我をしないように、
転倒防止対策をしておくといいでしょう。

(カ) 防災グッズや食料の備蓄についてですが、地震に限らず、自然災害が発生した場合、自分
の地域では、災害が発生していなくても、メインの道路や鉄道が被災して、流通が止まっ
て、食料の供給が停止したり、広範囲に停電が発生したり、浄水場が被災して、水道が止ま
ったりするといったリスクがあります。

そういったリスクに対応するため、最低3日分の食料と、水、燃料を備蓄しておくように
しましょう。

また、備蓄品は、2階家の場合、災害リスクの少ない2階に備蓄するようにしましょう。

(キ) 携帯電話は、震度4以上の地震が到達すると思われる地域に、音量をマックスにして、地
震の到達を知らせるようになっています。(契約、ガラケー、スマホに関わらず、自動的に
なされます。)

特に、就寝中は、気が付かないので、携帯電話は、枕元において、寝るようにしましょう。

(ク) 広島県は、比較的、地震災害の少ない地域になっていますが、慢心せず、こころの備え
を、普段からしておくようにしましょう。